

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103143		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐阜		
所在地	岐阜県岐阜市栗野東5丁目4番地		
自己評価作成日	平成30年9月12日	評価結果市町村受理日	平成30年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JikvovsoCd=2170103143-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム横はスーパーになっており、利用者様をお連れし買い物に行ったり、美容院もホーム近隣にあるため、訪問美容室ではなく出かけることで、地域交流の機会となっている。
最近では自治会との交流が活発化してきており、ホームで認知症に関する勉強会の開催を行ったり、消防避難訓練にもご参加頂いた。
地域との交流の機会を増やすように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が毎日笑顔で過ごせるように、利用者のその人らしさを活かした支援に取り組んでいる。レクリエーションの充実、特に外出支援に力を入れている。ホームが町中にあることもあり、隣接するスーパーへの買い物や喫茶店は馴染みの場所となっている。外出が難しくなった利用者の「自分も行きたい」という意思を汲んで、春の遠足は大型バスを貸し切って利用者全員で「うかいミュージアム」に出掛けることができた。また、合唱コンクールの出場や秋刀魚祭り、地域の文化祭、高校生との定期的な交流など、多くの楽しみの場を作っている。
毎月の便りや個別の報告書には利用者のホームでの暮らしを詳しく記載している。家族からは利用者に応じた細やかな対応があると感謝の声があがっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を朝礼、夕礼時に唱和を行い、全スタッフの共通認識になるよう努めている。	法人の定めたグループホーム運営理念とケアの信条を毎日朝礼で唱和している。ホーム独自としては今年6月にホーム長が新任した際に「みんなが笑顔になれるホーム」を掲げ浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方が毎月来訪してくださっています。地域の小学生との交流もつなげている。	散歩時の挨拶、喫茶店、隣接するスーパーで日常の買い物をしている。大勢の小学生や2ヶ月毎の高校生のボランティア訪問を受け入れている。今期は回覧板にホームの避難訓練参加のお礼を載せた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学生に向けて認知症サポーター養成講座を開催(学校の授業に組み込んでいただいている)。また、近隣の喫茶店等に出かけ、認知症の方への理解や支援の方法を見ていただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。市役所、地域包括、居宅、ご家族様から助言をいただいて、スタッフ会議等で情報共有を行うようにしています。	運営推進会議は適切に運営され、市職員、地域包括支援センター職員、複数家族が出席している。ヒヤリハット報告、行事報告、意見交換が行われている。	運営推進会議に自治会長や民生委員など地域の人が参加することで、地域との交流が深まることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をいただいたり、定期的に連絡を取らせていただいて、電話での相談等を行っております。	社会福祉協議会主催の「街の幸せ隊」として地域交流を図っている。また地域包括支援センターの会議に参加している。市や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席しており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置が義務つけられている。定期的に「虐待・身体拘束」チェックシートでのチェックを行い、研修、ケアの見直し、身体拘束廃止委員会の設置により、会議を開催、全スタッフへの周知を行っております。	虐待・身体拘束に関するチェックシートに基づき3ヶ月毎に全職員参加の研修を実施している。利用者の言動は否定せず、行きたいところへ安全に行けるように支援している。また職員がストレスをかかえない環境づくりにも力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内での研修も定期的に行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で毎年必ず勉強会を行い、必要な知識を取り入れていくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等の際は十分な時間かけご家族様の不安や疑問点を解決できるようお話をさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や意見箱を設置しております。年1回、会社より、ご家族様アンケートを実施、またご面会時にお話し、要望等うかがえるように努めています。	家族が知りたい情報を的確に伝えるために便りの内容を工夫したり、居室に利用者の普段の姿を映した写真を飾っている。家族の要望は検討し、一例として土日来訪時にも金銭授受ができるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム会議、フロア会議の開催を行っております。会社から、年一回スタッフアンケートを実施し、意見の反映をするよう努めています。	職員の意見は否定せず、今までの方法をさらによい支援にするための話し合いが行われている。各研修があり知識・技術の向上に活かしている。今後はユニットリーダーを置き、意見の吸い上げをしていく考えである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいため、全体の平等性も考慮しながら環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修やエリアでの研修の機会を設けています。業務中での疑問点は、その都度、相談に乗れるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、グループホーム協議会等の参加で交流を深めるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを実施し、利用者様のお話をゆっくりと伺い、スタッフ間での情報共有し、信頼関係の構築ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの時点からご本人・ご家族様の意見を伺い、状態を把握したうえで支援を行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様ともに話を聞き、ご本人様のニーズに添ったサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人個人の生活・プライバシーを尊重しながら、より良い関係を築けるように努めています。ともに生活をする者同士、対等な立場でお話ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来訪時は日常の様子をお伝えしています。またご家族様と対等な立場でお話をお聞きし、利用者様を共に支えることを念頭に置きながらお話をさせていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら、なじみの場所へ行けるよう支援させていただいております。	以前住んでいたタイに3泊4日で旅行をした利用者があり、ケアマネージャーが家族のフォローで同行している。利用者は懐かしい土地でのできごとや言葉が蘇り、現地の人々と交流し、よい思い出となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の良好な関係づくりのためフロアの席配置などを配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされた後もご家族様から連絡があった際は、できる限りの支援をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また会議やカンファレンスなどで話し合いを行い、できるだけご本人の希望に添えるような支援に努めています。	利用者との日常会話や家族の情報から利用者の思い等をくみ取っている。思い等はケアマネージャーを中心に職員と共に個別支援として実践をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、ご本人様から入居前の生活をお聞きし、できるだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とゆっくりとお話しし、一人一人心身の状況把握に努めています。スタッフ間の情報共有は申し送り等で行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にご家族様の参加が難しく来訪時の聞き取りや電話で要望等の確認をしている。	毎月のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリングやサービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。利用者の身体や意向の変化が生じた時は3ヶ月に拘らず見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート、フロア会議などで、情報を共有し、プランの有効性をスタッフ同士が共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対してもその都度ケアプランの更新や、突発的なことでも対応させて頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、店舗が多いため買い物にでかいている。地域のボラや学校との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医師との連携をはかり、速やかな対応を行い円滑な関係作りに努めています。他科受診の際はご家族様にご協力をお願いしています。	ホーム協力医、訪問看護師、薬局が連携し、訪問看護を窓口で24時間対応をしている。協力医の往診があり、全利用者が利用している。他科受診は家族対応だが、初診など場合によってはホームが同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と密接な連携を図り、日々の体調変化に対し速やかに対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との連携を図り相互に情報の共有ができるように、また定期的に訪問しご家族様が安心して頂けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の指針」の説明を行い理解して頂いたうえで入居されている病状の変化により、その都度、話し合いに機会をいただいています。	重度化した場合、適切な支援が受けられる環境を医師や家族と話し合っている。特別養護老人ホーム等の案内をしているが家族からホームを終の棲家にしたとの要望は多い。職員への研修等で職員の不安を解消し、利用者や家族の要望に応えたい思いである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に掲示し、緊急時の対応の対応が確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち会いのもと、消防訓練を行いスタッフの技術向上に努めています。自治会の方にも参加いただけるよう声をかけさせていただいております。	年2回の消防訓練の内1回は夜間想定で行われ、消防署立会いのもと指導を受けている。3月の消防訓練は自治会会員が参加している。今年は台風で長時間の停電が起こり、その際必要な物を購入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の定めたマニュアルに沿ってホーム内研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないように努めています。	法人の行う研修でマナーやプライバシーを損ねない支援について学んでいる。トイレの扉は閉める、入浴時には羞恥心に配慮する、馴れ馴れしくしないなど、目上の人を敬う気持ちで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、ご本人様が選択できる機会を作れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフペースではなく、ご利用者様のペースで希望に添えるような生活支援が出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様との意思を確認したり、それが困難な利用者様は、スタッフが意識するように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好き嫌いを把握し、食べたいもの、嗜好に沿える様に提供しています。	食事の献立は法人から提供されているが調理は全てホームで行なっている。イベントに沿った献立もあり、敬老の日は「赤飯」を提供している。個別にパン食や外食の要望にも応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様にあつた食事形態を提供している。食事・水分量の把握をし、健康維持ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、自立のご利用者様には声掛けを行い、必要に応じてケアの支援を行っています。また訪問歯科による、口腔ケアの実施と、定期検診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンを把握し、その方に合わせた介助を行っています。	記録から利用者の排泄パターンを把握している。現状は大半が自立しているが、夜間帯にポータブルトイレを利用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便チェックを行い、医師や看護師と相談しながら対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調を考慮し、定期的に入浴をいただいています。	楽しみとして長湯や歌を歌う、職員とのおしゃべり等ゆったりとした時間で週2回ほど入浴をしている。準備等も自ら行なう利用者もあり、急かさず利用者のペースに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や就寝の時間を自由にとっていただけるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の説明や薬剤情報により薬の把握を行い状態の変化に注意し、主治医や訪問看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人の得意なことを把握し無理のないように自然と役割を持って頂けるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣には店舗が多いため、希望時には外出ができるように支援しています。	道向かいの喫茶店や隣接するスーパーへ買い物に出掛けている。外出が難しい場合は庭でお茶を飲むなど外気浴をしている。今年5月は利用者全員が貸し切りバスで「長良川うかいミュージアム」へ出掛け、昼食を楽しんでいる。	利用者一人ひとりの要望が叶えられる外出を増やしたい考えである。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い管理は事務所で行い、買い物の希望時にはいつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族様の了承を得て、ご利用者様からの希望時はご家族様へ連絡がとれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境委員や掲示委員を中心に、ご利用者様の意見も取り入れ心地の良い空間作りに努めています	リビングや廊下は明るく、車いすが通っても余裕の広さがある。ユニット毎に華美にならない程度の飾りやイベントの写真や創作物を展示している。利用者の人間関係にも配慮して席順を考えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではくつろげる空間をつくり、ご利用者様同士がコミュニケーションがとりやすい環境になるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人様が使い慣れた家具を持ってきていただけるようご家族様へ依頼し、入居後はご自分のお部屋づくりを考えて写真など張ったりしています。	居室には使い慣れた筆筒や生活小物等を持ち込んでいる。部屋の清掃や整理整頓は担当の職員が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレなど、わかるように表示しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を朝礼、夕礼時に唱和を行い、全スタッフの共通認識になるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方が毎月来訪してくださっています。地域の小学生との交流もつなげている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学生に向けて認知症サポーター養成講座を開催(学校の授業に組み込んでいただいている)。また、近隣の喫茶店等に出かけ、認知症の方への理解や支援の方法を見ていただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。市役所、地域包括、居宅、ご家族様から助言をいただいて、スタッフ会議等で情報共有を行うようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をいただいたり、定期的に連絡を取らせていただいて、電話での相談等を行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置が義務つけられている。定期的に「虐待・身体拘束」チェックシートでのチェックを行い、研修、ケアの見直し、身体拘束廃止委員会の設置により、会議を開催、全スタッフへの周知を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内での研修も定期的に行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で毎年必ず勉強会を行い、必要な知識を取り入れていくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等の際は十分な時間かけご家族様の不安や疑問点を解決できるようお話をさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や意見箱を設置しております。年1回、会社より、ご家族様アンケートを実施、またご面会時にお話しし、要望等うかがえるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム会議、フロア会議の開催を行っております。会社から、年一回スタッフアンケートを実施し、意見の反映をするよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいため、全体の平等性も考慮しながら環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修やエリアでの研修の機会を設けています。業務中での疑問点は、その都度、相談に乗れるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、グループホーム協議会等の参加で交流を深めるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを実施し、利用者様のお話をゆっくりと伺い、スタッフ間での情報共有し、信頼関係の構築ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの時点からご本人・ご家族様の意見を伺い、状態を把握したうえで支援を行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様ともに話を聞き、ご本人様のニーズに添ったサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人個人の生活・プライバシーを尊重しながら、より良い関係を築けるように努めています。ともに生活をする者同士、対等な立場でお話ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来訪時は日常の様子をお伝えしています。またご家族様と対等な立場でお話をお聞きし、利用者様を共に支えることを念頭に置きながらお話をさせていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら、なじみの場所へ行けるよう支援させていただいております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の良好な関係づくりのためフロアの席配置などを配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされた後もご家族様から連絡があった際は、できる限りの支援をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また会議やカンファレンスなどで話し合いを行い、できるだけご本人の希望に添えるような支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、ご本人様から入居前の生活をお聞きし、できるだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とゆっくりとお話しし、一人一人心身の状況把握に努めています。スタッフ間の情報共有は申し送り等で行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にご家族様の参加が難しく来訪時の聞き取りや電話で要望等の確認をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート、フロア会議などで、情報を共有し、プランの有効性をスタッフ同士が共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対してもその都度ケアプランの更新や、突発的なことでも対応させて頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、店舗が多いため買い物にでかけている。地域のボラや学校との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医師との連携をはかり、速やかな対応を行い円滑な関係作りに努めています。他科受診の際はご家族様にご協力をお願いしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と密接な連携を図り、日々の体調変化に対し速やかに対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との連携を図り相互に情報の共有ができるように、また定期的に訪問しご家族様が安心して頂けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の指針」の説明を行い理解して頂いたうえで入居されている病状の変化により、その都度、話し合いに機会をいただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に掲示し、緊急時の対応の対応が確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち会いのもと、消防訓練を行いスタッフの技術向上に努めています。自治会の方にも参加いただけるよう声をかけさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の定めたマニュアルに沿ってホーム内研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、ご本人様が選択できる機会を作れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフペースではなく、ご利用者様のペースで希望に添えるような生活支援が出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様との意思を確認したり、それが困難な利用者様は、スタッフが意識するように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好き嫌いを把握し、食べたいもの、嗜好に沿える様に提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様にあつた食事形態を提供している。食事・水分量の把握をし、健康維持ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、自立のご利用者様には声掛けを行い、必要に応じてケアの支援を行っています。また訪問歯科による、口腔ケアの実施と、定期検診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンを把握し、その方に合わせた介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便チェックを行い、医師や看護師と相談しながら対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調を考慮し、定期的に入浴をさせていただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や就寝の時間を自由にとっていただけるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の説明や薬剤情報により薬の把握を行い状態の変化に注意し、主治医や訪問看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人の得意なことを把握し無理のないように自然と役割を持って頂けるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣には店舗が多いため、希望時には外出ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い管理は事務所で行い、買い物の希望時にはいつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族様の了承を得て、ご利用者様からの希望時はご家族様へ連絡がとれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境委員や掲示委員を中心に、ご利用者様の意見も取り入れ心地の良い空間作りに努めています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではくつろげる空間をつくり、ご利用者様同士がコミュニケーションがとりやすい環境になるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人様を使い慣れた家具を持ってきていただけるようご家族様へ依頼し、入居後はご自分のお部屋づくりを考えて写真など張ったりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレなど、わかるように表示しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を朝礼、夕礼時に唱和を行い、全スタッフの共通認識になるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方が毎月来訪してくださっています。地域の小学生との交流もつなげている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学生に向けて認知症サポーター養成講座を開催(学校の授業に組み込んでいただいている)。また、近隣の喫茶店等に出かけ、認知症の方への理解や支援の方法を見ていただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。市役所、地域包括、居宅、ご家族様から助言をいただいて、スタッフ会議等で情報共有を行うようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をいただいたり、定期的に連絡を取らせていただいて、電話での相談等を行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置が義務つけられている。定期的に「虐待・身体拘束」チェックシートでのチェックを行い、研修、ケアの見直し、身体拘束廃止委員会の設置により、会議を開催、全スタッフへの周知を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内での研修も定期的に行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で毎年必ず勉強会を行い、必要な知識を取り入れていくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等の際は十分な時間かけご家族様の不安や疑問点を解決できるようお話をさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や意見箱を設置しております。年1回、会社より、ご家族様アンケートを実施、またご面会時にお話し、要望等うかがえるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム会議、フロア会議の開催を行っております。会社から、年一回スタッフアンケートを実施し、意見の反映をするよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいため、全体の平等性も考慮しながら環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修やエリアでの研修の機会を設けています。業務中での疑問点は、その都度、相談に乗れるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、グループホーム協議会等の参加で交流を深めるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを実施し、利用者様のお話をゆっくりと伺い、スタッフ間での情報共有し、信頼関係の構築ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの時点からご本人・ご家族様の意見を伺い、状態を把握したうえで支援を行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様ともに話を聞き、ご本人様のニーズに添ったサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人個人の生活・プライバシーを尊重しながら、より良い関係を築けるように努めています。ともに生活をする者同士、対等な立場でお話ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来訪時は日常の様子をお伝えしています。またご家族様と対等な立場でお話をお聞きし、利用者様を共に支えることを念頭に置きながらお話をさせていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら、なじみの場所へ行けるよう支援させていただいております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の良好な関係づくりのためフロアの席配置などを配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされた後もご家族様から連絡があった際は、できる限りの支援をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また会議やカンファレンスなどで話し合いを行い、できるだけご本人の希望に添えるような支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、ご本人様から入居前の生活をお聞きし、できるだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とゆっくりとお話しし、一人一人心身の状況把握に努めています。スタッフ間の情報共有は申し送り等で行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にご家族様の参加が難しく来訪時の聞き取りや電話で要望等の確認をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート、フロア会議などで、情報を共有し、プランの有効性をスタッフ同士が共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対してもその都度ケアプランの更新や、突発的なことでも対応させて頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、店舗が多いため買い物にでかけている。地域のボラや学校との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医師との連携をはかり、速やかな対応を行い円滑な関係作りに努めています。他科受診の際はご家族様にご協力をお願いしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と密接な連携を図り、日々の体調変化に対し速やかに対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との連携を図り相互に情報の共有ができるように、また定期的に訪問しご家族様が安心して頂けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の指針」の説明を行い理解して頂いたうえで入居されている病状の変化により、その都度、話し合いに機会をいただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に掲示し、緊急時の対応の対応が確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち会いのもと、消防訓練を行いスタッフの技術向上に努めています。自治会の方にも参加いただけるよう声をかけさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の定めたマニュアルに沿ってホーム内研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、ご本人様が選択できる機会を作れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフペースではなく、ご利用者様のペースで希望に添えるような生活支援が出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様との意思を確認したり、それが困難な利用者様は、スタッフが意識するように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好き嫌いを把握し、食べたいもの、嗜好に沿える様に提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様にあつた食事形態を提供している。食事・水分量の把握をし、健康維持ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、自立のご利用者様には声掛けを行い、必要に応じてケアの支援を行っています。また訪問歯科による、口腔ケアの実施と、定期検診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンを把握し、その方に合わせた介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便チェックを行い、医師や看護師と相談しながら対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調を考慮し、定期的に入浴をいただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や就寝の時間を自由にとっていただけるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の説明や薬剤情報により薬の把握を行い状態の変化に注意し、主治医や訪問看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人の得意なことを把握し無理のないように自然と役割を持って頂けるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣には店舗が多いため、希望時には外出ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い管理は事務所で行い、買い物の希望時にはいつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族様の了承を得て、ご利用者様からの希望時はご家族様へ連絡がとれるように支援している。携帯電話を持っておられ、ご家族様と電話されている方も見えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境委員や掲示委員を中心に、ご利用者様の意見も取り入れ心地の良い空間作りに努めています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではくつろげる空間をつくり、ご利用者様同士がコミュニケーションがとりやすい環境になるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人様が使い慣れた家具を持ってきていただけるようご家族様へ依頼し、入居後はご自分のお部屋づくりを考えて写真など張ったりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレなど、わかるように表示しています。		